

2. 応急処置、緊急時の対応

Abdominal Injury (腹部の外傷)

お腹を強く打った場合、内臓の出血が命取りになる。車、バイク、スキーなどでの事故で多くみられる。

救急車 911 を呼ぶべき時

- けがの後、お腹、肩、股関節にひどい痛みがあるとき。
- お腹が腫れ、全体が固い、お腹を押すとひどく痛がる時。
- 意識がないとき。
- 吐いたものが、血液またはコーヒー残渣様の時。
- 下血、または赤茶色の便、トイレに多量の血液があるとき。

医者に診てもらわなければならない時

- 便、尿に血が混じっているとき、または予想外の膣からの不正出血。
- 腹部のけがにより、吐き気、嘔吐、胸やけ、食欲不振があるとき。
- けがにより、その後も、軽度から中程度の痛みが12時間以上続き、軽快が見られない場合。

家庭での対応方法

- ベルトやズボンのボタン、チャックなどを緩め、毛布などで暖かくし、足を頭より高くして寝かせる。
- 原因が分かるまでは、飲食は控える。
- 内臓出血はすぐ症状が出ないこともあるので、2～3日は様子を見る。

.....

Bites From Animals and Humans (動物や人間に咬まれた場合)

感染症と傷痕が一番の心配だが、破傷風ワクチンの接種を考慮する。また、野生の動物に咬まれた場合、狂犬病を発症する可能性もあり、ワクチン接種が必要である。(北米では、コウモリ、タヌキ、スカンク、キツネ、コヨーテ他多くの野生動物に可能性がある。)

医者に診てもらわなければならない時

- 傷が深く、縫合が必要な場合(6～8時間以内に縫合処置をしなければならない。)

- コウモリやほかの野生動物から咬まれた、ひっかかれた時。
- 人間か猫から咬まれた時。(感染症になりやすい。)
- 咬んだ動物が、口の中で泡をはいていたり、奇妙な行動をとっていたり、理由無く攻撃的だった時。(アニマルコントロールセンターにも連絡する。)
- 飼い主のわからないペットに咬まれた、または、飼い主が狂犬病のワクチンを定期的に行っているかどうか定かでない時。
- 咬まれた傷口より下の部位の感覚が麻痺、または動かせなくなっている時。
- 傷口が感染しているような時。(痛みの増強、腫れ、熱感、赤み、膿、発熱など)
- 過去5年以内に破傷風のワクチンをしているか不確かな時。

家庭での対応方法

- もし出血がひどければ、出血の項を参考にする。そうでない場合、まず5分間ほどそのまま出血させて様子を見る。
- その後、石鹸と水で傷をきれいに洗い流す。(アルコール、イソジンまたはほかの洗剤を使ってはいけない。)
- 地元のアニマルコントロールセンターまたは、保険局に連絡し、その後の処置を仰ぐが、前もって、咬んだ動物が、狂犬病のワクチンをしているかどうかなどの情報を収集しておく。

.....

Bite and Stings- Insects, Spiders, and Ticks

(昆虫、蜘蛛、ダニその他の虫に噛まれた、または刺された場合)

ほとんどの人は、発赤と腫れ、かゆみなどで治まるが、まれに強いアレルギー反応を起こし、死に至る人もいる。過去に強いアレルギー症状の出た人は、エピペンなどのエピネフリン注射の携帯と、市販の抗ヒスタミン剤 (Benadryl など) を持ち歩くことを勧める。

蜘蛛：ほとんどの蜘蛛は無害だが、クロコゲグモ (black widow) ,ドクイトグモ(brown recluse),ホーボーグモ(hobo spider)は、毒蜘蛛なので、素早い医療手当が必要。



クロゴケグモ



ドクイトグモ

ダニ：主に鳥や動物の羽、毛の中に生息し、人や動物の血液を栄養にする。早春、晩夏によく見られる。ほとんどのダニの刺されは重篤な症状にはならないが、ライム病、**Rocky Mountain spotted fever**（ロッキー山紅班熱）、回帰熱などインフルエンザ様の症状を起こすことがあるので、見つけたら直ぐに取り除くのが良い。

ライム病の場合、刺された後、一日から1か月の間に刺された跡が大きくなり、発熱、体の痛み、だるさなどの症状が出てくる。

救急車911を呼ぶべき時

- 刺されてすぐ強いアレルギー反応が出た時（呼吸困難、顔、唇、舌のむくみ、刺された周りのひどい腫れ、意識障害、ショック症状）
- 過去に重篤なアレルギー症状を起こしたことのある虫に刺されたとき。

医者に診てもらわなければならない時

- 発赤の広がり、強い痒み、熱感、蕁麻疹がある時。
- 水ぶくれ、皮膚の色の変化がある時
- 上記記載の毒蜘蛛に刺された時
- 2～3日しても症状が改善しない時

- 感染症状がある時（痛みの増強、腫れ、熱感、赤み、膿、発熱など）
- ダニが皮膚に付着している時。
- 最近ダニに刺された可能性があり、刺されたとされる場所か又そうでない場所に、発疹が広がり、インフルエンザ様症状がある時など。
- 過去に重篤なアレルギー症状があり、アレルギーキットなどについて相談したい時など。

家庭での対応方法

昆虫、蜘蛛

- 蜂の場合、刺された部分の針を擦るか軽くはじいて取り除く。（毒がさらに皮膚の中に入ることがあるので、絞りとらない。）針が見られなかったら、刺された場所に針がないか確認する。
- 毒蜘蛛に噛まれた場合、噛まれた場所を冷やして、医者に行く。止血帯は使用しない。
- 刺された場所を冷やし、ベーキングソーダ（重層）と少しの水で練り合わせたものを貼ると、痛みが和らぐ。
- Benadryl などの抗ヒスタミン剤を内服、またはカーマインローション、コルチゾンクリームを塗る。（痛み、腫れ、かゆみを抑えるが、内服の場合、6歳未満の子供には医者に相談する。）
- 患部を石鹼で洗い、水で流す。
- 爪を切って、引っかかないようにする。
- 感染を起こす可能性があるため、水疱はつぶさない。

ダニ

- 森林の中で、帰ってきてから、体、服、髪の毛などにダニが付いていないか、また、ペットの毛についていないか、よく調べる。
- ダニが皮膚についていた場合、毛抜き用ピンセットで、なるべく肌に近いところで、ダニの頭の口先をつかむように（体をつぶさない）まっすぐ引き抜く。取ったダニは、瓶の中に入れて、のちにインフルエンザ様の症状が出た時のために保管しておく。
- ダニをとったら、石鹼でよく洗い水で流す。
- ダニを焼こうとしたり、除光液、アルコールなどで拭き取らない。



ピンセットで垂直に引き抜く

蚊とウエストナイルウイルス

ウエストナイルウイルスは蚊を媒介し、人に感染する。健康な人はほとんど症状は現れないが、子供、高齢者、慢性病を持つなど抵抗力の弱い人が感染すると、3日から14日以内の間に、発熱、頭痛、体の痛みなどで発症し、最悪の場合、脳に感染し死に至る。

医者に行くべき時

- 過去2週間の中に蚊に刺され、発熱、頭痛、頸の硬直、意識障害、運動障害がみられる時。
- 微熱、発赤、体の痛み、頸や、鼠蹊部のリンパ腺の腫れが見られ、2〜3日経過しても改善しない場合。

ウエストナイルウイルス感染を予防するために

- 夜明け、夕暮れ、早朝の蚊の多い時間帯の外出を避ける。
- 肌を露出する衣類は避け、布地は厚いものにする。
- 虫よけスプレー（DEETを含んだもの、レモン、ユーカリプタスなど）を使用する。
- 家の近くに、水を溜めておかない。（蚊はほんの少量の貯め水でも、繁殖する。）

.....

Bleeding Emergencies (出血)

救急 911 を呼ぶべき時

- ひどい出血が止まらない時。
- 意識がなくなるまたは、もうろうとしている時。
- たくさん血を吐いた時、または、コーヒー様の吐物の時。
- 血のたぐさん混じった便、赤黒い便、またはトイレに大量の血液が出ていた時。
- 妊娠中期または後期で、膣から大量の出血がある時。